

緩和ケア施設

さとわ

No.4

緩和ケア施設「郷和」理念

- 1.豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
- 2.その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
- 3.その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

郷和、この1年

施設長 桜井 金三

懸案だった「セデーションのマニュアル」がまとまり、実際に使用を始めています。セデーションが必要な患者様は少ないながら、セデーションは緩和ケアの本質と深く関連することですので、「試行錯誤」を重ねていく所存です。

5月に2回目の遺族会を開催し、たくさんの遺族の方にお集まりいただき、語り合いました。今のところ年に1回の開催ですが、来年以降も定期的で開催していく予定をたてています。

開所以来「ペット禁止」としてきましたが、患者様ご家族のご希望が増えてきました。そこで東日本地域のホスピス緩和ケア病棟にアンケートをお願いし、その結果を参考にさせていただき、郷和としてのマニュアルを作成しました。犬・猫などの小動物に限らせていただきますが、ペットの面会をしていただけるようになりました。早速、子犬の訪問を受けた患者様がおられます。ペット起因の感染症などにも注意しながら、患者様にはお好きなペットとのふれあいを楽しんでいただきたいと思います。

おります。（今回面倒なアンケートに答えてくださったホスピス緩和ケア病棟の皆様へ深く感謝申し上げます。後ほどアンケートの集計と郷和のマニュアルをお送りいたします。）

昨年の講座で学ばれた方が殆ど参加してくださり、郷和のボランティア活動も盛んになってきました。何かと殺風景な病棟も少しづつにぎわいが出てきたように思います。来年は3回目のボランティア講座を開いて、さらにたくさんのボランティアさんに参加していただきたいと思っています。

特筆すべきこととして、スタッフの小池ナースが、1年間神奈川まで勉強に通い、このほど「ホスピスケア認定看護師」となりました。スタッフの切磋琢磨の先頭に立ってくれるものと期待しています。そしてますます郷和のケアレベルアップにつなげていければと思っています。郷和も6年目に入りました。院外の皆様にもお世話になりながら、新潟の緩和医療の充実のため努力していく所存です。引き続きよろしくお願いたします。（2006/8/16）

ホスピスケア認定看護師として

ホスピスケア認定看護師 小池宜子

私は2002年11月に、郷和に配属されました。それまでは主に急性期病棟で働いてきました。救急現場でテキパキと医師の指示を受け、それをこなすことが、有能な看護師であると考えていました。

しかし郷和では、医療行為はほとんどありませんでした。今まで私は、片手に血圧計、点滴などをもち、それをきっかけに患者様の部屋を訪れていたのです。

では、何も持たずに患者様とどうやって向きあえばよいのでしょうか。患者様や家族にとってどんなケアが必要なののでしょうか。

悩んで挫折した頃、ホスピス緩和ケアナース養成研修を受講しました。3週間講義を受け、後半3週間は淀川キリスト教病院ホスピス病棟で見学実習をしました。「耐えられない苦しみはない。全力を尽くします。」「何か心配事はないですか。」という医師の声、ベットサイドに座り傾聴する看護師の姿に、私が探していたケアの答えがありました。

私は看護の原点であるホスピスケアの視点から看護を実践したいと決心しました。一年間、神奈川県看護協会学び、今年ホスピスケア認定看護師の資格を取得しました。

実習は衣笠病院ホスピスで受けました。心のケアを求めて衣笠病院を選んだ一人の患者様を受け持ちました。この患者様を通して、共にいること、耳を傾けること、チームで支えることの大切さを学びました。

また私を指導してくださった認定看護師の酒井先生からは、勤勉な姿を誰に見せることなく、スタッフ全員に穏やかに接する態度、実習生である私達の疑問を言語化することを促し、そっと自分の引き出しを開けてくれる人としての器の大きさを学びました。

認定看護師は、看護現場において実践、指導、相談の三つの役割を果たし、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献します。私はリソースとして活用してもらえよう自己研鑽を積み、ホスピスケアの普及に努めます。

そして患者様やご家族が一般病棟でも在宅でも、同じ質のホスピスケアが受けられることを目標に、郷和が皆様の研修の場となれるよう努力してゆきたいと考えています。これからも御指導をよろしく申し上げます。



「郷和家族の会を開催して」

医療相談員 阿部葉子

昨年に引き続き、ポプラの緑が眩しい季節に「郷和」において家族の会が開催されました。

玄関でご家族をお迎えすると、入院中の出来事や亡くなられたご本人の表情や会話が一瞬で思い出されました。家族の会では、ご案内をさせていただいたご家族から一通のお手紙をいただき、それをご紹介しました。お手紙を書いちゃった人は、まだ「郷和」で家族の会が開催されていない時から、同じ想いを抱えた家族の交流を望んでいらっしやいました。お手紙には、入院中郷和の階段を登る一步一步が重かったこと、ご本人が亡くなられた後元氣に見られ「早く立ち直ったね。」と言われる言葉が辛かったこと、言葉をかけられることも嫌いになり誰とも会いたくなくなったこと等、本当に貴重で大切なお気持ちを綴っていただきました。

その後のお茶会では、短い時間ではありましたが参加いただいたご家族とご本人との思い出や、現在のご家族の様子やお気持ちを語り合うことができ、とても深い時間をすごさせていただきました。

家族の会を通じて大切な大切な家族を亡くされた方にとって、そこからの立ち直りは決して時間の長さでは測ることはできないことだ、と改めて感じました。

ご本人が亡くなった後もご家族を支えていくことができるよう、よりよいケアを目指し研鑽していかねばならないと切に思います。

お手紙をくださったさん、家族の会に参加してくださった方々、大切な想いと時間をありがとうございました。



郷和家族の会



今年の5月27日(土)第2回家族の会を開催しました。13家族、18名が参加して下さり、お茶会等を通して2時間あまりの時間をすごされました。

御家族から貴重なお話を聴け、又、久々にお顔を拝見でき、スタッフ一同、とても貴重な時間を頂戴できました。今後も、家族の会を通して、御家族の方々との関わりを大切にしていきたいと思えます。

ボランティアを始めて約一年が経ち、少し反省できる
ところにようやく到着した思いです。気負いがあって自
分だけが空回りをしていたようなスタートでした。先輩
ボランティアの行動を見、又、対話を通じて、なるほど
と思った事が実に大きかったです。

短い約一年のうちで何度も不安になり、これから続け
ていく事が出来るか内心穏やかならぬものがありました。
それでもホスピスボランティアの方が書いた文章で大き
く心が変化し、落ち着くことが出来ました。それは、そ
こにおいてニコニコするだけでも良いのだという内容でした。
これで気持ちが楽になっていきました。

そうすると次の「郷和」の行事等も苦にならず、た

ずむボランティアを続けています。会場設営での力仕事
は本当にボランティアを続けている充実感を思いっきり
感じる一時です。ボランティアの形態、内容は多岐にわ
たりますが、その全てが患者さんにとってベターである
ことが大切だと思います。

今は、自分を野外整備担当ボランティアと勝手に名付
けて草むしりや掃除を第一にやっていますが、汗を拭く
後から、又、汗の中にも充実した気分、会場設営と通じ
るものがあります。これからも共感できるボランティア
を目指して、皆さんと協調してたたずむボランティア、
ニコニコするボランティアになりたいと思います。

編集後記

広報「さとわ」第4回を発行するこ
とができました。

今年の8月1日で当施設は、丸5年
になりました。

多くの患者様・御家族様との出会
いの中で考えさせられることが沢
山あり、それらは全てスタッフの
糧となっています。今後も、心地
よい環境の中で充実した時間を過
ごしていただけるよう、スタッフ
一同、努力していきたいと思

「郷和」利用状況

(H.17年4月～H.18年3月)

入院患者数	112名
一日平均入院利用者数	15.8名
平均病床利用率	79.1%
平均在院日数	54.6日

編集・発行 南部郷厚生病院 併

緩和ケア施設「郷和」

〒959-1704 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300